



中村俊定文庫
文庫 18
583



満月やし都をそらそら子守唄
大佛の座をき川島神を日
そ扇
ほき

大和路をゆく

伊賀大和りさある山や雪の音
雲ゆく何城たう免ん冬雪山
千鳥唄も溪の社り竹の光り
世路りか実る垢離のとの衣
牛はかき朝のむく木は陽む
立出くぬ、先も津く雪の月
巴山
子尺
孤堂
奇雲
父植
硯路
和而之向

歌仙 一系庵社中

老の脊よみ此りきくや奥の院
志きく不流り此水新碑
大倉人長上下此裾ゆりく
時代梨子絵の香杯より
塀指月く世さの鏡ゆ遠く
芦の穂舞如舟くちりこむ
滄波
為徳
柳糸
市泉
化や
川車

や、室くぬねのこり藤魚や
是は投出してすゑふ日三里
百日ふ阿まふ目費乃沙法も(家)
かゝる妻さんあまは常の縄
風待り乳ち乃君共おあろも
むいし歌しよまゝの位も
知る福も其すち成引歌の終
又むと志より羽織とひよ
お川より雲霧を隔てて位あり

汲水 荷桂 巴道 岡越 素家 紫雪 市泉 柳紫 お徳

宇和島よりお伏の道く
月巻と祈りし神お二もら
産忌の袖しか新起りぬる
角^{ナラ}路中も籠もふ髪の儼儼ゆ
是も清き阿天ゆくの酒
難役の朝しすりよるわしと籠
黄濁調し古寺おら
かろくお遠路の鳥帽子子小提く
障子の、亭女人同をくらん

浪波 紫雪 巴道 川車 似や 荷桂 素家 少懸 海女

高しぬ長所くく如所 燈
 明中 婦りまや妻乃 好風
 けき 燈時 音 行て 来る かつ 結
 上 残 下 へ 空 空 始 亮 中 一
 池 の 原 の 高 高 の 原 の 自 己 己
 ま じ り せ せ 落 る 木 の 実 子 の 実
 せ せ せ せ 押 せ せ かしこ せ 操 と 老 角 力
 空 空 空 空 空 空 空 空 空 空 空 空
 去 去 去 去 去 去 去 去 去 去 去 去
 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素
 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳
 泉 泉 泉 泉 泉 泉 泉 泉 泉 泉 泉 泉
 柴 柴 柴 柴 柴 柴 柴 柴 柴 柴 柴 柴

経 連 引 け け 糸 糸 糸 の 何 等
 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高
 無 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸
 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳
 泉 泉 泉 泉 泉 泉 泉 泉 泉 泉 泉 泉
 柴 柴 柴 柴 柴 柴 柴 柴 柴 柴 柴 柴

卯 亥 十 六 日 月 記

川 原や身をたぬれし花
 柳 紫 子 立 子 日 暮 糸
 木 之 根 之 根 之 根 之 根
 珠 粉 之 之 之 之 之 之
 布 之 之 之 之 之 之
 玉 之 之 之 之 之 之
 影 之 之 之 之 之 之
 青 之 之 之 之 之 之

柳 紫
 深 波
 川 車
 荷 樹
 危 什
 化 地
 深 水
 柳 紫

旅遍照寺高僧風眠居士連

病 之 初 也 老 之 終 也
 之 月 如 新 也 之 枯 柳
 之 之 之 之 之 之
 柳 之 之 之 之 之 之
 柳 之 之 之 之 之 之
 柳 之 之 之 之 之 之
 柳 之 之 之 之 之 之
 柳 之 之 之 之 之 之
 柳 之 之 之 之 之 之
 柳 之 之 之 之 之 之

柳 紫
 深 波
 川 車
 荷 樹
 危 什
 化 地
 深 水
 柳 紫

丁茶をふるまう〜の男と村〜と絶
居酒屋の海老〜と〜錢の巻
霜を〜と〜の舟〜梅の
嘘〜と〜や〜霜を〜火根細
埋火張つ〜と〜小舟千尋
りの山〜と〜色のおも〜と〜茶ちり
表の雪〜と〜朝や〜と〜お
沸〜と〜茶〜と〜松風流〜と〜お
松原や〜と〜中〜と〜茶かき

田丸

山院

半栗

山田 赤江

櫛田 菅原

イカガシ 己蓮

大石 杖雪

山田 素川

山田 洗利

李喜

エリ、エ
旅柱自年日巻二三の松〜
無〜

汐川のひく〜と〜松水は

平島

とら〜と〜 雪交〜と〜飛

柱日

朝の間〜と〜屋敷の砂〜と〜持〜

去妙

標〜と〜松よの地〜と〜お松

牛父

白代の地〜と〜つる島中

島石

お茶屋のふら〜と〜お茶

笠船

高俵を朧月肩の露跡の秋ふ
女をうらむる色の手

杜月

井父

清きものゝとき時と踏張りて

望船

雲の氣を踏、採りて不

ある

はら成るゝも何屋の恥しき

去也

ひき成はせきし 拙僧の事

杜月

萬年 雲の月 月成いさき起る

井父

ありふ成るゝ風薫るゝ

斗星

は神示とての岩戸の劫ありき

ある

清き土 慈きよき清色

望船

ひらきもや二之の人の花の酒

杜月

らん事しと揃ふ船の跡し

望

山畑に珠籠うつわの月

井父

橋杭に 鶯籠るる霜の朝

望船

う成るゝ 雲の月 秋の

ある

風流し 何とに程なりしと成る

去也

珠に一人の道よりや初時雨
 葉まともなる葉の原に深山
 風の音をききし社に南
 神宮や何れを往くと巻ぬ無
 振やうとして神よあや旅の笠
 鳥の鳴る声はちりりあけ
 ありてしとてたそろくは木といふ
 雲をよみ鏡を提りしと神を
 山はさき新瑞しとて神を月

沙岸
 柱月
 魚江
 小堂
 栄見
 山部
 桐葉
 文志
 をのみ

六つ一葉を浅き水に流す
 ちりり浮世に身をまかせ
 人やぬ雪の垣根の水仙志
 りの壁に照る影うけ村に花
 長きとて川原に坐す人の心
 古くししの山にせし心あり
 ありの月ありしとてはたえり
 一しき浪やそらふさかむ鳴る
 雲の舞や小田原のやとて我を

松坂
 久保
 三四坊
 山
 二流
 古流
 古流
 尾
 松月
 お祥
 お貞

松明子家主人之好も雪の香
弱下駄の音も雪も霜水も
素味

二子或山院より

埋火の音も探出の庵の音
夕しそ燕唐の音もあやも雀の
芦江

逢坂のしそ神といふ路より

先もふも志と神もしそ梅梅の裡
や鈴も雪も志もあやもとん不持
そり

融かし如麻也十年のかかるは免
山見

二子平六の
旅業作也

神屋の音もあやも免りし橋音法
鴨の音もあやりのゆいよいよ
人志純は袋紙の音もあやも持
こ契ゆりし音も養者出向ふ
目曇りたる世のた免しあや月の輝
まろしとまろしとけり

送る
素江
鴨川
斗雲
波扇
雪

湖 空 子 旅 の 河 島 梨 の 立 い ち 記
 免 角 豆 府 角 何 よ 侍 帯 七
 不 心 の り 地 を 遠 ひ ま ぎ ら 落 極
 臨 の 史 婦 の 玉 極 む ち ま し
 又 し も 神 鏡 負 ち む し 神 鏡
 あ 鏡 ち 共 葎 を 是 ち あ や 免 ち
 弁 ち ら ち む し 郭 一 公 鳴 明 の 目
 関 の 養 子 ち ち ち ち 見 事 一 ち
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

素江 磯川 波扇 素江 子 逸 子 磯川

切 信 と ち ち ち ち 珍 馬 の ち ち ち
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 扶 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 湖 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 今 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

子 素江 逸 子 波扇 磯川 子 逸 子 波扇

梓 梳を徒来の人のうちかの巻
 依屋へまゝ家も風船なるへし
 店さ記り釣り飄き人の好きさ
 甲さの赤子のたしむる無類
 板りのあつたうしし月姑影
 玉ほし伸る子綿の荊花
 園とくハ雪袴もくく長刀
 乙子の儀しハ能あつた地
 りの色し肉介の神のつらさ

津川
 夕暮
 素江
 子
 夕暮
 逸る
 波弱
 素江
 夕暮

今ハ傳る小車一の裂
 いひ事ハ忍身越揃へるむあうり
 海を来あつた本の花より直

逸る
 津川
 子

あま

悠くハ風のきみしし水か
 志拂好あまうりハ喜紀霜あふ南
 不のそきさハ雪吹ハ風を
 指しとまるとも足ハ霞あふ

羅波
 對川
 南
 巴海
 ハタセ
 風也
 カイハナ
 寸丈

息子の傳の海に望むるや夕時
 夕の霜之の冷ききききき
 夕と秋のし一ねと云く
 飄きんの印もわし秋きき
 朝霜のし知く大秋大秋
 立と海のし人志かし
 見くくわし秋し
 夕立のせきとりし
 眼くくわし秋し

星合 波島
 乳能 素江
 之海 土橋
 有石 葛石
 柳原 馬孝
 法田 斗友
 山上 雲子
 新島 孝来

六、夏

夕立のし秋し
 夕立のし秋し
 夕立のし秋し
 夕立のし秋し
 夕立のし秋し
 夕立のし秋し
 夕立のし秋し
 夕立のし秋し

子得
 斗雲
 硯池
 子得
 斗雲

野崎の吹矢流を免る小娘は

池ののちぬ今も志日好き

小舟も後にも思ふ身もた狭きれと

舟のちり後にも思ふく鬼神

舟のちり後にも思ふく鬼神

舟のちり後にも思ふく鬼神

湯浴もさりしあとも奈も揃らさぬ

娘のちり後にも思ふく鬼神

舟のちり後にも思ふく鬼神

子好

子好

子好

子好

子好

子好

子好

子好

子好

しらやんくもいやお産痛

九つ時の大鼓を花は

芽も花柳の葉をこぼせ

つたきくも来るも志日好き

大さお終春哉とて

ちり後にも思ふく鬼神

ちり後にも思ふく鬼神

ちり後にも思ふく鬼神

ちり後にも思ふく鬼神

子好

子好

子好

子好

子好

子好

子好

子好

子好

珠宮との孔の句の冬の花
 ぬも新やたそもうの神女
 あり神を忘神と云すも古山
 車は若の物より来く
 月夜に空しく月夜に
 鳴るのさす徳あへ
 祭礼も古神の森を神さへ
 八尋と御う又はちと
 たのさかぬら引くも縁うさ
 斗星 子母 硯池 子母 斗星
 斗星 子母 硯池 子母 斗星

けりぬきおたり消えぬ
 日こけりたかぬのさへも
 能る陽光さす川や糸折ふ
 斗星 子母 硯池 斗星
 斗星 子母 硯池 斗星

於 香 白 庵

陽館月次探題

大いしし月のおきより又しと神 湖家
新しと花の邊りや神しと神 少年 梅笛
麦芽やし肌 狂言 搦手の中 山
埋まや侍人 かくて又也

麦支

りしと蕪 甚きとと進んおりのり 小戸 志尾

延喜進加

神しと神 新酒の磁のゆくきり車 吳雪
生進子共 新の雪の心 枯しと 公扇

田丸

しと神 々々 小松の鬼瓦 松園
しと雪 物未 端よとと 朽ちた 芭友
湖のわしと神 の中 の鯨魚 龍子

切法と字より 延き 神 ぬきとと 小島江 子夢

とつとつ移りてゆく橋の木のや
のち

能吟

やいふちのつとつ
まのち

南枝

かゝりてゆくちのつとつ
のち

斗吟

